

立命館憲章

立命館は西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、「孟子」の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館史資料センターでは資料を収集しています。

立命館史資料センターでは、立命館の歴史に関する文書、写真をはじめ、各種資料の収集、整理、保存を行っています。資料に関する情報をお持ちの方、ご協力いただける方は、下記までご連絡ください。

学校法人 立命館 立命館史資料センター
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8209
<http://www.ritsumei.ac.jp/archives/>

2017/4 5,000



立命館と歩く京都

立命館のあゆみをたどる



学校法人 立命館



1868(明治2年)
西園寺公望(中国の古姓「孟子」の字)の恩典により、立命館の由来が定められた。
1870(明治3年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1871(明治4年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1872(明治11年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1873(明治12年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1874(明治13年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1875(明治14年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1876(明治15年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1877(明治16年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1878(明治17年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1879(明治18年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1880(明治19年)
立命館は、立命館の由来が定められた。
1881(明治20年)
立命館は、立命館の由来が定められた。



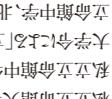
立命館の由来が定められた。



立命館の由来が定められた。



立命館の由来が定められた。



立命館の由来が定められた。



立命館の由来が定められた。



学校法人 立命館



(*) () () ()

立命館ゆかりの地 散策マップ



【朱雀キャンパス】

①朱雀メモリアルホール



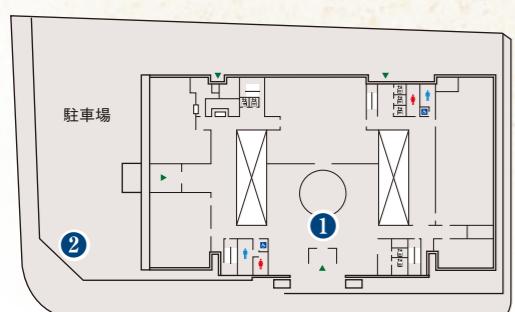
朱雀キャンパスを正面から入ると西園寺公望揮毫の「立命館」の扁額と学園創立者・中川小十郎像を据えたホールがあります。このホールの中には2001年西園寺別荘「坐漁莊」(ざぎょそう)近くの清見寺で発見された西園寺公望石膏像のレプリカリーフと「立命館」の由来となった「孟子」尽心章(じんしんじょう)にちなんで2005年に中国政府(国务院)新聞弁公室より寄贈された孟子像があります。

②中川小十郎記念碑



中川小十郎十三回忌に校友会・清和会の発起により1957年10月7日広小路・中川会館に建立されました。碑文は末川博総長。1979年衣笠に新中川会館が新築されるとともに移設。2006年朱雀キャンパスが開設されて、法人基本棟を中川会館と命名するに伴い衣笠から朱雀に移設しました。

立命館 朱雀キャンパス 1F



【京都市内】

③立命館創始の地—私塾「立命館」(京都御所 白雲神社周辺)



京都御所・蛤御門東南の白雲神社付近は、学祖・西園寺公望の私邸でした。1869(明治2)年9月、西園寺公望はここに私塾「立命館」を開きました。現在は「西園寺邸跡」の標柱が建っています。

④立命館草創の地—「清輝樓」(上京区中之町 東三本木通り)



この地にあった料亭「清輝樓」は、1900(明治33)年、京都法政学校開校時の仮校舎でした。1997年までは旅館として営業していましたが現在は無く、記念碑が建っています。

⑤立命館発祥の地—広小路キャンパス跡(上京区中御霊町)



御所・清和院御門前の現・京都府立医科大学敷地は立命館が初めて取得したキャンパスでした。1901(明治34)年、清輝樓から移転して以降1981年まで立命館大学広小路キャンパスがあった場所です。現在は「立命館学園発祥之地」記念碑が建っています。

⑥北大路学舎—立命館中学校から小学校へ(北区小山西上総町)



この地には立命館北大路学舎がありました。1905(明治38)年広小路に開設された「私立清和普通学校」は1906(明治39)年に「私立清和中学校」、1913(大正2)年に「私立立命館中学」に、1919(大正8)年に「立命館中学」と改称した後1922年この地へ移転します。その後新制「立命館中学校・高等学校」もこの地にあって1988年深草に移転するまでの歴史を刻みました。2006年新たに立命館小学校が設置され現在に至っています。立命館小学校校門脇の石碑にある「培根達支(ばいこんたつし)」の揮毫は、西園寺公望によるもので、中国の儒学者の朱子が編纂した『小学』の題辞(序文)の一節「建學立師、以培其根、以達其支」に基づいています。その意味は「人生を豊かにし、学問を大成させるには、生き方の根本、学びの基礎・基本を若いうちにしっかりと養い育てることが重要である」というものです。

⑦白雲莊—中川小十郎邸(上京区塔之段寺町通今出川上ル)



中川小十郎が晩年を過ごした邸宅で、1954年立命館学園の校舎となりました。1959年「白雲莊」と命名され、学園諸行事や福利厚生施設として長く使用されました。現在は老朽化のため使われていません。(非公開)

⑧私立京都法政学校創立事務所跡(中京区六角魅屋町西入ル)

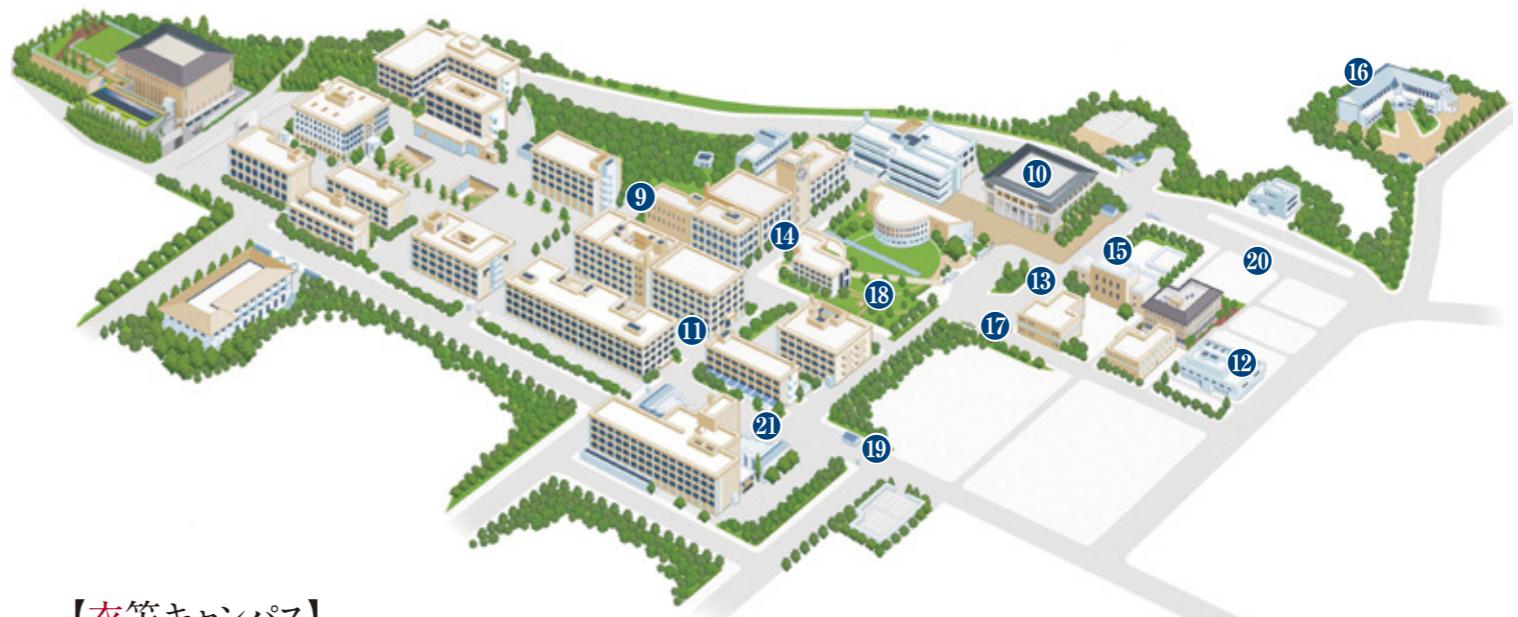


1899(明治32)年朝日生命保険会社本社(現在の朝日生命とは別会社)の一室に京都法政学校創立事務所を設置し、京都法政学校創立の準備をしていました。現在は京都市生涯児童公園となっており、面影はありません。

㉑市電の歴史と衣笠キャンパスに残る敷石



京都市内にはかつて路面電車が縦横に走っていました。1895年に京都電気鉄道として開業した路面電車は1918年に合併した後京都市電となり1978年に廃止されるまで、京都市民の足として親しまれました。北大路の立命館中・高等学校、河原町の広小路キャンパス、西大路の衣笠キャンパスの生徒・学生達も毎日の通学に利用していたのです。1978年に廃止された後、市電の車両や敷石は民間に払い下げられ、車両は地域の公園遊具や図書室に、敷石は「二年坂」「産寧坂」「石塀小路」「哲学の道」の石畳などに活用されました。衣笠キャンパス以降学館前の石畳も当時払い下げられた市電の敷石です。



【衣笠キャンパス】

⑨創立者・中川小十郎の墓(等持院墓地内)



研心館と有心館の奥に「等持院墓地」があり、中川小十郎の墓があります。小十郎は1944(昭和19)年10月7日に亡くなり、学園葬に統いて広小路、北大路、衣笠それぞれの学舎ごとに告別式が行われました。現在も毎年墓参が続けられています。

⑩「立命館」の扁額(平井嘉一郎記念図書館2階)



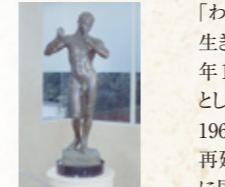
平井嘉一郎記念図書館2階には、「立命館」扁額が掲げられています。この扁額には「明治二年秋九月二三日」の日付があり、私塾「立命館」の塾名として西園寺公望自身が揮毫したものです。

⑪「理工学部発祥の地」の石碑(修学館前)



理工学部は、1938(昭和13)年北大路に立命館高等工科学校として設置され、翌1939(昭和14)年に立命館日満高等工科学校に改組した後11月に衣笠に移転します。以後1949年の理工学部(新制)設置から1994年の理工学部のBKC移転までの45年間、理工学部はこの地にありました。

⑫わだつみ像と立命館大学国際平和ミュージアム



「わだつみ像」は、アジア・太平洋戦争の戦場にかり出され生きて帰ることのなかった戦没学生を記念する像です。1953年12月8日広小路に設置され、平和と民主主義のシンボルとして像前での「不戦の集い」が開催されるようになりました。1969年5月大学紛争の中で破壊されました。翌年12月に再建、1976年5月に衣笠図書館に再建立された後、1992年に国際平和ミュージアムが開館すると移設されています。国際平和ミュージアムは立命館の教育理念「平和と民主主義」を発展・具現化する教育・研究施設、社会開放施設です。開館以来日本全国の市民・児童・生徒・学生に利用されています。

⑬「未来を信じ」 「未来に生きる」の石碑



1981年、学園創立80周年と衣笠一拠点完成(全ての学部が衣笠に移転した)を記念して建立されました。銘文は「わだつみ像」の台石の碑文から抜粋したもので、「平和と民主主義」の教育理念の下、未来を担う青年たちに大きな夢を託した末川博の精神を伝えています。

⑭レリーフ「法の理念」(存心館内)



末川博揮毫で、1981年法学部の衣笠移転と法学部創立80周年を記念して存心館1階に設置されました。法学部で学ぶ学生たちに「法の理念は正義である」とのメッセージを贈っています。

⑯末川記念会館



戦後、学園の復興と振興に尽力した末川博の偉業・遺徳を偲び、1983年に開館。ありのじの書斎・遺品を復元展示しています。

京都地方裁判所から移設した松本記念ホール陪審法廷も設置され、1946年末川博によって始められた「立命館土曜講座」とともに市民に親しまれています。

⑯西園寺記念館



学祖・西園寺公望の自由主義・国際主義の精神を受継いで真の国際人を育成する思いを込めて1988年国際関係学部の基本施設として命名されました。現在、史資料センターが置かれ、西園寺公望邸址や西園寺由来の石燈籠や庭石等が野外展示されています。館内ロビーには、西園寺が学問の深さを示して「禮記」から引用した「學然後知不足」(学びてから後足らざるを知る)の額と西園寺のレリーフ、「立命館由来記」があります。

開館 毎日9:00~17:00(月曜日・学休期間は閉館)見学の際は本冊子「立命館と歩く京都」を守衛にお見せください

⑰立命館その由来の碑



2000年に立命館創立130年・学園創立100周年を記念して立命館大学父母教育後援会から寄贈されました。碑文は日展参事で校友の今井凌雪氏により「立命館」の由来となった「孟子」の尽心章(じんしんじょう)の一節が揮毫されています。

⑱中川小十郎ゆかりの泰山竹(だいさんちく)



1919年頃、小十郎は西園寺公望の別荘「坐漁莊」(ざぎょそう)そばの旅館を常宿としていました。その庭に台湾から持ち帰った珍しい竹「泰山竹」を寄贈移植しています。2002年、株分けされた竹を衣笠キャンパスに植えています。

⑲立命館大学の門標



衣笠キャンパス東門の「立命館大學」の門標は、書道家の綾村坦圓揮毫によるもので、広小路から移設されたものです。綾村氏は京都大学の卒業で末川博より15歳ほど若いのですが、第三高等学校で同じ弁論部であったことから知己を得て揮毫したと伝わります(最初の門標は1953年広小路キャンパス正門に設置)

⑳衣笠球場と名残の電柱表札



衣笠キャンパスには1948~1969年の間「立命館衣笠球場」がありました。大学のスポーツ施設でしたがプロ野球なども開催され市民に大変親しまれています。現在球場の名残を示すものは、「衣笠球場」の表札が付けられた電柱だけです。